

## 政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

会派：夢みらい

夏川嘉一郎

(2) 実施日：平成28年1月29日（金）9：30～11：00

### 【1. 調査の目的】

(1) 未婚者支援対策事業についての視察研修

### 【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目

未婚者支援対策の概要

(2) 選定地

愛知県東海市・市役所

### 【3. 調査結果】

(1) 内容

市の全容：人口11.3万人。面積43.43km<sup>2</sup>。都市形態－臨海工業都市

#### ■結婚支援センター設立の経緯

H21年4月、現鈴木市長就任時、現状の未婚率39.9%を10%低い30%にダウンすることを示唆。H21年度～H23年度、施策の策定。推進。更に子育て結婚応援の町としての都市宣言。制定。

H23年4月、東海市結婚支援センター開設

#### ■センター事業費

H21年度：580万円

H22年度：1,724万円

（開設準備） H23年度～H27年度迄（1年の平均530万円）

職員賃金、各種講座、場の設定、委託事業支援、祝い金（10万円）、ホームページシステム作り等

#### ■組織体制

市民福祉課 — 少子化対策  
— 子育て支援センター（センター長）  
— 結婚支援センター（婚活応援） ↓

（市全体 NPO、サポーター育成、協力要請  
講座企画、コーディネーターなど）

## ■センター事業内容

- (1) 婚活ホームページ運営
- (2) 婚活メールマガジン配信
- (3) 婚活各種相談
- (4) 婚活出会いの場創出
- (5) 婚活各種講座運営
- (6) 婚活サポーター募集、運営補助
- (7) 婚活イメージ向上、婚活成功のための諸教育
- (8) その他未婚者支援

祝い金10万円支援制度（結婚後3カ月以上市内居住が条件）

## ■センター事業実施状況

- ・NPO委託事業 年間2～3回（セミナー、フォーラム、交流会）
- ・自主事業（市行政）年間約7回（講座、親向け講座1回）
- ・サポーター事業 年間19～22回（料理婚活、コンパ、ヨガ会、その他）

## ■課題と今後の方向

### 【課題】

- ・特定の異性に人気集中する。
- ・女性との会話下手な男性が多い（鉄工事業所が多いためか、交代勤務者が多い）
- ・毎回同じ男性ばかりくるので女性が集まりにくい。マンネリ化など

### 【今後の対策】

- ・出会いの場づくりの工夫
- ・個人または団体のプロ的コーディネーターの育成など

## ■施策の成果

他市で居住する場合も多いので現在調査中。

## (2) 考察

未婚率が上昇しているという問題は、現在社会が抱える憂慮すべき課題である。かつて「個人問題、自己責任課題」として社会施策の埒外にあったこの問題は、社会構造の急激な変化によって、少子高齢化問題とも関連する重要な社会的課題として浮上しつつあり、その対策が待たれる所となっている。

その点で東海市の婚活支援策は、時代を先取りしたパイオニア的施策と考える。

本彦根市も聞くとところによると未婚率がかなり高まっている。施策検討の時期ではと考える。

平成28年2月5日

報告責任者：夏川嘉一郎

## 政務活動費活動報告（視察）

(3) 出席者（会派名・個人名）

会派：夢みらい

夏川嘉一郎

(4) 実施日：平成28年1月29日（金）14：30～16：00

### 【1. 調査の目的】

(2) 「低炭素社会実現への取組み」施策についての視察研修

### 【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目

「低炭素社会実現への取組み」施策の概要

(2) 選定地

愛知県豊田市・市役所分館・エコフルタウン内

### 【3. 調査結果】

(3) 内容

市の全容：人口約42万人。面積918.4km<sup>2</sup>（約70%山林）。中核都市。

■環境総合政策について

目的：人と環境と技術が融合する「ハイブリッド・シティとよた」をコンセプトに、本市の強みである「交通」「産業」「森林」の三分野の取組みを柱として、施策アクション推進。国内外へ情報発信。活力ある低炭素社会を目指す・・・とする。（総合計画でプラン化）

■目指す社会像

・低炭素社会：環境モデル都市（強化）	・自然共生社会：生物多様性保全
・循環型社会：資源循環（高率化）	・市民環境行動力の向上と共働のすすめ

■環境モデル都市としてのCO<sub>2</sub>削減目標

長期視点：2050年迄に50%削減。チャレンジ70%（1990年度比）

中期視点：2030年迄に30%削減。チャレンジ50%（1990年度比）

システム推進協議会：（市民、大学、企業、市連携の形）市がコーディネイト役

■ 具体的施策

① 「とよた低炭素取組み策」 情報発信拠点

低炭素社会モデル地区「エコフルタウン」
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全面積：1.55ha 「とよた未来都市」 縮図</li> <li>・ 全ての環境関連情報発信基地（国内外） （世界各地から見学者多い）</li> <li>・ 環境課題相談所（事業所、個人、小団体）</li> </ul>

④ 自然環境（湿地保護）

ラムサーム条約（湿地）登録
東海丘陵湧水湿地群（矢並、上高、恩真寺） 保護地域拡大を目指す。

② エネルギー関連（各種支援）

次世代エネ・社会システム実証地域づくり ↓ 大幅支援
省エネ実証モデル（エネルギー管理機「HEMS」取付。電気自動車仕様） 団地作り

⑤ 自然環境（森林の保全）

100年の森づくり（全面積の70森林）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人工林を広葉樹林に順次移行</li> <li>・ 切替不可の人工林は斜面に小道作り（大幅間伐で元気林育成）</li> <li>・ 森林学校の設定</li> <li>・ 都市緑化策</li> </ul>

③ エネルギー関連（各種減税）

各種環境減税の創設（対象）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スマートハウス（モデル建築） （太陽光、畜エネ、省エネーヘムス）</li> <li>・ 再生可能エネ発電設備</li> <li>・ 電気自動車（何れも大幅減税）</li> </ul>

⑥ 交通関連

省エネ、小型エコカー「ハーモ」の開発
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 超小型「ウイングレット」開発</li> <li>・ 「ハーモ」路上・市道 OK</li> <li>・ 「ウイングレット」は路上</li> <li>・ 水素自動車一般化に取組み中</li> </ul>

貸出  
OK

(4) 考察

豊田市の低炭素社会実現策の特徴は、その持てる力（未来指向型、先進技術）をフルに活用したCO<sub>2</sub>削減策。またそれのみではなく広範な農・山間部に恵まれていることを利用した本来の自然環境保護策をも付加。それらを融合・世界に通じる独自の「とよた低炭素社会実現策」を構築している点にあると考える。

何れにしてもベースにトヨタならではの高い技術力があるとは云え、世界に通じる独自性、未来指向的パイオニア性は、本彦根市も大いに参考にすべきと考える。